

総合情報学部の教員の養成の目標

<総合情報学部 総合情報学科>

総合情報学部総合情報学科では、情報技術の進化が人々の生活や活動を新しい次元に変革しつつある時代であるからこそ、情報の価値判断を誤ることのない、本質を見抜く能力を養うことを重視している。そのため、3つの履修体系（メディア情報系、社会情報システム系、コンピューティング系、）のカリキュラム群を基盤にして最先端の専門性を高め、それぞれの学問領域の古典や教養等、学問の基本を大切にしたい広い視野の総合知を身に付け、「情報」と「情報に関する諸問題」に対し、諸科学横断的で総合的視野に立った教育・研究アプローチを行うことにより、次世代を切り拓く先進的人材の育成を目指している。

この教育理念のもと、次の3つを基本に、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

(1)情報の理論とその意義や機能及び情報と人間・社会の関係について幅広い知識を有し、情報を収集、分析、表現するための基盤技術（情報フルエンシー）を修得している。(2)文理にわたる幅広い視点から「情報」を捉え、情報ネットワーク利用における高い倫理性を持ちつつ、社会の様々な領域における問題発見、問題解決及び価値の創出ができる。(3)急速に発展する情報社会と情報技術に常に関心を持ち、高度なコミュニケーション力に基づいて課題解決に主体的かつ協力的に取り組むことができる態度を身に付ける。そして、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びにそれらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える。

(総合情報学部 総合情報学科 高一種免 公民)

基礎となる学部専門教育において、情報をキーワードに、人文・社会・自然科学の3つの分野を横断的に学べる文理総合型のコンセプトを活かす。多彩な学問領域に及ぶ科目群から、興味・関心に合わせて自由に選択することで、複雑な現代社会に関わる様々なテーマを多面的に探究させる。さらに、進路をイメージした系統的な履修体系として〈3つの系〉の方向性から、確かな情報フルエンシー（利活用能力）を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、政治、経済、文化、科学技術、コミュニケーションなど現代社会のあらゆる領域の問題・テーマを「情報」の視点から多面的に探究・解明する。情報・メディア・コンピュータの理論的知識だけでなく、人間と社会に対する幅広い視野と知識を、文系・理系の枠にとらわれることなく養い、併せて多彩な実習科目の中から身に付けたいスキルを基礎から段階的に修得させる。

これらの専門科目と実習科目の多彩な科目群から複合的な学びを実現するため、〈3つの系〉として「メディア情報系（言語・教育・文化など多面的視野から、情報メディアとコミュニケーションについて学ぶ。）」「社会情報システム系（企業や社会組織において情報を活用し、様々な問題を解決する力を養う。）」「コンピューティング系（社会や人間と共存・協調できるコンピュータ・システムの可能性を追究する。）」によってカリキュラムの枠組みを構成する。この重層的なカリキュラムから、学生に自分が目指す未来ビジョンに合わせて科目を選択させ、また、必要に応じて〈系〉を複合させて自分のカリキュラムを組み立てて卒業論文（作品）として学びの成果を完成させることで、確かな情報フルエンシー（利活用能力）と、情報の本質を見通す能力と柔軟な専門性を養成している。

高等学校「公民」の教職課程では、上記の系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸プログラムで修得された学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、次の3点から教員養成を行う。(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。具体的には、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を養成する。さらに、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営にお

いても、これらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(総合情報学部 総合情報学科 高一種免 数学)

基礎となる学部専門教育において、情報をキーワードに、人文・社会・自然科学の3つの分野を横断的に学べる文理総合型のコンセプトを活かす。多彩な学問領域に及ぶ科目群から、興味・関心に合わせて自由に選択することで、複雑な現代社会に関わる様々なテーマを多面的に探究させる。さらに、進路をイメージした系統的な履修体系として<3つの系>の方向性から、確かな情報フルエンシー（利活用能力）を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、政治、経済、文化、科学技術、コミュニケーションなど現代社会のあらゆる領域の問題・テーマを「情報」の視点から多面的に探究・解明する。情報・メディア・コンピュータの理論的知識だけでなく、人間と社会に対する幅広い視野と知識を、文系・理系の枠にとらわれることなく養い、併せて多彩な実習科目の中から身に付けたいスキルを基礎から段階的に修得させる。

これらの専門科目と実習科目の多彩な科目群から複合的な学びを実現するため、<3つの系>として「メディア情報系（言語・教育・文化など多面的視野から、情報メディアとコミュニケーションについて学ぶ。）」「社会情報システム系（企業や社会組織において情報を活用し、様々な問題を解決する力を養う。）」「コンピューティング系（社会や人間と共存・協調できるコンピュータ・システムの可能性を追究する。）」によってカリキュラムの枠組みを構成する。この重層的なカリキュラムから、学生に自分が目指す未来ビジョンに合わせて科目を選択させ、また、必要に応じて<系>を複合させて自分のカリキュラムを組み立てて卒業論文（作品）として学びの成果を完成させることで、確かな情報フルエンシー（利活用能力）と、情報の本質を見通す能力と柔軟な専門性を養成している。

高等学校「数学」の教職課程では、上記の系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸プログラムで修得された学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、次の3点から教員養成を行う。(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。そして、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においても、これらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(総合情報学部 総合情報学科 高一種免 情報)

基礎となる学部専門教育において、情報をキーワードに、人文・社会・自然科学の3つの分野を横断的に学べる文理総合型のコンセプトを活かす。多彩な学問領域に及ぶ科目群から、興味・関心に合わせて自由に選択することで、複雑な現代社会に関わる様々なテーマを多面的に探究させる。さらに、進路をイメージした系統的な履修体系として<3つの系>の方向性から、確かな情報フルエンシー（利活用能力）を養成するカリキュラムを編成している。具体的には、政治、経済、文化、科学技術、コミュニケーションなど現代社会のあらゆる領域の問題・テーマを「情報」の視点から多面的に探究・解明する。情報・メディア・コンピュータの理論的知識だけでなく、人間と社会に対する幅広い視野と知識を、文系・理系の枠にとらわれることなく養い、併せて多彩な実習科目の中から身に付けたいスキルを基礎から段階的に修得させる。

これらの専門科目と実習科目の多彩な科目群から複合的な学びを実現するため、<3つの系>として「メディア情報系（言語・教育・文化など多面的視野から、情報メディアとコミュニケーションについて学ぶ。）」「社会情報システム系（企業や社会組織において情報を活用し、様々な問題を解決する力を養う。）」「コンピューティング系（社会や人間と共存・協調できるコンピュータ・システムの可能性を追究する。）」によってカリキュラムの枠組みを構成する。この重層的なカリキュラムから、学生に自分が目指す未来ビジョンに合わせて科目を選択させ、また、必要に応じて<系>を複合させて自分のカリキュラムを組み立てて卒業論文（作品）として学びの成果を完成させることで、確かな情報フルエンシー（利活用能力）と、情報の本質を見通す能力と柔軟な専門性を養成している。

高等学校「情報」の教職課程では、上記の系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸プログラムで修得された学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、次の3点から教員養成を行う。(1)情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を養成する。さらに、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においても、これらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。